

有識者ヒアリング等について

平成28年12月1日

「明治150年」関連施策の推進に係る検討に向け、平成28年11月に内閣官房「明治150年」関連施策推進室において、別添の有識者を訪問し、ヒアリングを行った。併せて、経済団体や地方関係団体等も訪問し、情報提供を行うとともに、協力依頼を行った。概要については、以下のとおり。

【女性関係】

- ◆ 明治維新による「アンシャン・レジーム」の解消に関し、女性については十分でなかったという見方もあるが、特に文化・教育の面では進歩があった。そうした明治以来の積み重ねが、戦後に結実したのだと思う。
- ◆ 1872年に学制が公布され、男女ともに義務教育が導入されたことは諸外国と比較しても画期的。明治の先進性は、高等女学校や女子師範学校が開校され、女子教育を担う人材を育成していたことにも表れている。世界的には日本は明治時代から女子教育に力を入れていたと評価することができ、その後の発展の素地となったと思う。
- ◆ 明治期は「男尊女卑」とのイメージを持たれがちだが、庶民レベルで見れば、家業を財務・人事など実務の面で掌握して支えたのは女性であることが多い。そうした女性は全国各地にいると思う。各都道府県で「我が県の明治の女性たち」を特集するのも一案。
- ◆ これまでは、ごく一部の人しか明治期の女性は取り上げられていない。歴史的には無名であり、これまで顕彰されていなくても、優秀な女性は数多くいたはずだが、十分検証されていない。

【建築関係】

- ◆ 明治期において、日本は西洋の建築様式を比較的早く取り入れることができたと言える。第一世代は外国人が担い、その外国人に学んだ第二世代が東京駅、迎賓館などを造った。しかし、建築様式のようなデザインは西洋風でも、実際に建築したのは伝統的な技術を持つ大工などの職人である。江戸時代までに培われた伝統的な木造建築技術があったからこそ、西洋風建築も立てることができた。伝統的な技術が下支えしていたことが知られていない。

- ◆ 明治期の木造建物にも注目してはどうか。田舎には古民家が残っているように、日本の木造建築は非常に頑丈で、修繕すれば百年単位で使用できる。外面の西洋様式だけではなく、日本の伝統技術に注目してはどうか。
- ◆ アーカイブ化は、外観、内観だけでなく、図面などの関連情報も含めて行う必要がある。かろうじて残っている明治期の建物をアーカイブ化することの重要性を関係者は認識しているものの、現実的には動いていない。
- ◆ 国の文化財になっているものは、地方行政も注目して観光等での活用を考えてくれるが、そうでない明治期の建物については、注目される機会もない。まずは、ひっそりと存在する明治期の建物を、どのようにして、地方自治体が注目するようにするのが重要と思う。
- ◆ 建築において地方で活躍した人物や明治期の地方の建築物についての情報をうまく掘り起こして活用し、例えば、建築で活躍した地方の人物を中心としたストーリーにして、事前にツアーガイドを行って、その後、当該人物ゆかりの建築物を訪ねるというツアー形式の公開もおもしろいと思う。

【美術関係】

- ◆ 江戸期には、工芸は、藩の財政を支える重要機密技術であったが、維新後はその制限がなくなり、互いの技術を比較できるようになって、新しい技術革新が起こっている。特に、工芸は、明治維新直後には外貨獲得のための重要な方策であった時期もある。
- ◆ 浮世絵などの江戸期の美術品は昔からもてはやされているが、現在は、明治期の美術品が国内外でとても注目を浴びている。工芸品輸出に見られるように、工芸品を通して、最初に日本の価値観が西洋でもシェアされたと言える。明治150年においても、日本のよさを知ってもらおう契機となるのではないか。
- ◆ 明治期のものとして現在伝わっているものは、明治期には当時の最先端を行くものであった。当時は大変な時代であったと思うが、将来に夢を描ける時代であったとも思う。
- ◆ 当時は、東京で美術を学んで地方に戻った人材が多くいるので、そのつながりを基にして、東京と地方の美術館が連携したネットワーク型の展示もおもしろいと思う。
- ◆ 各美術館が個別にアーカイブ化の取組を進めており、取組の程度については差が大きい。また、アーカイブ化のフォーマットが共通化されていないことが問題となっている。

【アーカイブ関係】

- ◆ 全国の産業遺産について、アーカイブの視点から光を当て、関係する資料を整理していくと、近代日本の姿が見えてくるのではないかと考えている。
- ◆ 地域に埋もれている資料はたくさんある。特に工業など経済活動に関する資料については、民間が所有していることもあり、重要であるにもかかわらず、あまり残っていない。
- ◆ 地方のデジタルアーカイブ化の取組には濃淡があるが、熱心なところをモデルにして、横展開すると良いのではないか。
- ◆ 地方では古文書の読み方教室などが多く開催されており、文書解読の能力をもった人材が埋もれている。そういった人々にボランティアとして参加してもらうなど、助けを借りると良いのではないか。

【広報関係】

- ◆ シンポジウム等を実施するのであれば、明治改元の日（10月23日）だけでなく、2018年の中で、様々な形で、例えば女性向けや企業向けというメニューがあってもよいのではないか。
- ◆ 既存の枠から踏み出そうとした男性の精神、激動の時代を生き抜いた上で後世につながろうとした女性の精神や教育者の精神等を発信した上で明治期を振り返れば自分ごと化できるので、「明治150年」の気運が高まり、盛り上がるのではないか。
- ◆ 広報戦略は、対象を設定するところから始まるので、コンセプトを軸としつつ女性、若者、高齢者、教育者のような属性で分けて戦略を考えると親和性が出るのではないか。

【その他】

- ◆ ロゴマークの利用を原則自由化して、民間や自治体がタイアップ企画を行いやすい環境を作ることで、より開かれた取組にしてはどうか。

以 上

(別添) 訪問した有識者等

〈有識者〉

- 東京藝術大学大学美術館長 秋元 雄史 氏
- 宣伝会議取締役メディア・情報統括
兼 事業構想大学院大学学長 田中 里沙 氏
- 昭和女子大学理事長 坂東 眞理子 氏
- 東京大学工学系研究科教授 藤井 恵介 氏
- ジャーナリスト 松岡 資明 氏

〈経済団体〉

- 日本経済団体連合会
- 経済同友会
- 日本商工会議所

〈地方関係団体〉

- 全国知事会
- 全国市長会
- 全国町村会

〈その他〉

- 東京国立近代美術館フィルムセンター
- 東京都写真美術館